

南関東の土砂災害地名「びやく」とその語源について

相原 延光*(神奈川県立神奈川総合高校)・井上 公夫(砂防フロンティア整備推進機構)

§ 1. はじめに

演者らは、南関東地域の土砂災害と「びやく」の地名との関連を調査している。「びやく」の言語学的調査については、第 32 回歴史地震研究会(2016)でも紹介したが、これまでのデータを総括し、考古学や歴史学、日本語学から考察・整理したので報告する。

§ 2. 言語学的調査



図 1 関東地震による林野被害区域「山崩れ地帯」概況図と関東地震による土砂災害地点(三宅島を除く)(井上, 2013 に▲びやくの地点を追記)

(1)言語学的調査: 「びやく」と読む漢字には、岩盤が「突然開いて横に広げる」とか「裂ける様子」を意義とする漢字「關」「辟」「壁」「壁」がある。これらに共通する音符の「辟」の部首は、「しかばね」を意味し、不完全な人間の象形で、つくり「辛(鍼(はり))」は傷口を意味する。すなわち、字義は「鍼を挿して一気に引き裂くような(痛みを伴う)現象」である。「びやく」は「呉音」で、「漢音」では「へき」と発音する。呉音での発音は「入声」なので、アルファベットで表記すると「byak」(子音「k」は声にならない)。中華台北の発音が近い。日本語では「byak-u」となる。一般的に「bya」は「jya」に変化後、漢字の「蛇」に転化され、蛇や龍神信仰に組み込まれて広がったと思われる。

(2)「びやくがくむ」は呉音「びやく(關) = 裂ける」が骨格となって、くむ(崩む)という訓読みがされ、最後に助詞「が」加わり日本語として定着したと解釈される。

§ 3. 呉音と漢音の導入事情

近年の日本語学では、「呉音」は中国の三国時代の漢字ではなく、「倭音 = 対馬音」というのが正しいとされる。漢字が日本に伝来したのは 4 世紀末の応神天皇の御世で、百濟より渡来してきた王仁(わに)である(「論語」「千字文」にある「日本書紀」「古事記」に記述)。一方、国内で初めて発見された漢字文は千葉県市の市原市の稲荷台古墳から出土した「鉄剣」や和歌山県橋本市の隅田八幡神社の銅鏡とされる。倭の歴代の王は南朝の諸王朝に遣使し、朝貢し、倭国王としての地位の確認を求め、同時に多くの造形

文化や漢字・漢文の摂取に努めた。5 世紀後半までには「倭音」漢字を受容していたと考えられる。

大和朝廷は律令国家の「唐」代の標準語「漢音」を正音とし、以後「呉音」は使用禁止する改革を行った。以後、仏教界を中心に仏教用語で使用する漢字を「呉音」で呼び、唐音とともに呉音を整理した。倭音への翻訳作業は西文人他渡来系の人々であろう。

§ 4. びやくと宛てられる漢字

(1)ひらがなまたはカタカナ表記

びやく: 東京都大島町, 三宅島町, 町田市, 八王子市, 多摩市, 神奈川県港南台, 葉山町, 藤沢市江ノ島, 山北町(1923 年の関東地震), 清川村, 相模原市, 静岡県小山町

大びやく... 逗子市, 大ナルビヤク... 秦野市

びやくがくんだ... 江ノ島, 千葉県鋸南町, 鴨川上流ビヤク打ち... 東京都町田市(1703 年の元禄地震)

(2)壁(ニオサレテ), ビヤクトビ... 山梨県河口湖

(3)霹... 山梨県大月市(「雷霹」でイカヅチ, 国字)

(4)崩下(びやくした)... 千葉県富津市加藤(1703 年の元禄地震)

(5)毘野首(びやくび)... 伊東市

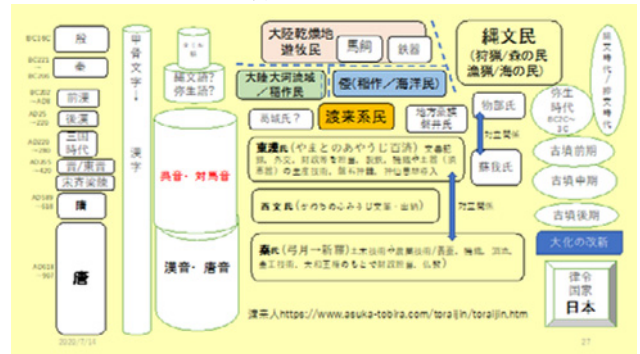
(6)琵琶(首)... 山梨県上野原, 千葉県市原市※白尾

(7)百首... 千葉県館山市

(8)びや(石偏に白)崩れ... 館山市

(9)一びやく, 人びやく(造字: 山冠に「辟」): なだれの意味... 南総里見八犬伝(石亭馬琴著)

§ 5. びやくの歴史的背景



§ 6. おわりに—土砂災害用語の層序学的重なり—

「びやく」は日本の弥生時代中期～古墳時代中期に中国～朝鮮半島南部と倭人(海洋民)が共通語として使用した南関東に残る土砂災害地名, 方言である。引き続き「びやく」の事例研究を深めていきたい。

【主な参考文献】

日本語学 2011 漢字音研究の現在, 地名の研究, 歴博 2017, 世界史図録, 南総里見八犬伝全十冊, 歴史大規模土砂災害地点を歩く, その II, その III